

令和3年(2021年)5月26日(水曜日)

## 湧水

三島の転入超過、県内1位

人口の一極集中に変化の兆しが出始めているのだろうか。新型コロナウイルスの影響でテレワークや大学のリモート授業が広がる中、首都圏から地方へと目を向ける人が増えている。都心まで新幹線で40分程度の三島市は2020年、人口の転入超過数が4年ぶりにプラスになり県内1位。住民票の転入、転出の数を元にした総務省の住

県内全域ではマイナス5580人と人口の流出からない本県にとって、この流れを追い風にしたい。

三島駅南口では今後、再開発事業が本格的に進む。コンセプトは広域健

ションや在宅勤務も含む新たな生活様式に適したまちづくりが、ポストコロナのぎわいを創出す鍵になるはずだ。

三島は首都圏のようないくつかの都心ではなく、かといって田舎でもない。中心市街地はある程度の都市機能がそろう一方、周辺には夏にホタルが飛び交う源兵衛川をはじめ豊かな自然があふれる。この都市空間と自然の共存こそが三島の強みだ。住宅ローン専門金融機関が3月に実施した「本当に住みやすい街大賞」では、三島の広小路地区が栄えある県内1位を獲得した。

## コロナ後へ地域力に磨き

三島の発展は三島だけの問題ではなく、伊豆の未来に大きく関わる。コロナで経済が疲弊する中、地域力を磨く努力はこれまで以上に重要だ。三島にはやる気のある市民が多い。官民のさらなる連携を期待したい。

(三島支局・金野真仁)